

歩くということ

村上ますえ

一挙に歩行を奪われ 知った
視界も 思考も変わることを

世界がほの暗く

平べったくなつたかのよう

機能が衰えぬうちに早く取り戻すことです

リハビリを促す療法士

衰弱した私は逃げに逃げた

こんな体で うごけない

弱気な私は逃げに逃げた

動けるだけでいい

脚を上げて

もう一回

動く こわばってはいけるけれど

動く 重たいけれど

もしかするとこの足で歩けるかも

私の心に射した光

まだだいいようぶ

歩く機能は残ってた

よたよた歩く私を支える療法士

私は歩かされている

「樹が色づいてますよ」

視点の定まらなかつた私

直立して初めて視界に収まった

窓辺の秋色の木々

自分の視点をもって今初めて歩いた

紅葉に向かつてはじめて歩いた

直立二足歩行

まだまだこの機能は捨てられない



新型コロナ5類移行

患者も病院も公的補助打ち切り

政府は新型コロナ対策の失敗を認めないまま、5月8日から感染症法上の位置づけを季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げると決めました。

5類移行とは公助の打ち切りを意味します。政府は段階的に縮小するとしていますが、いずれ患者の診療費だけでなく、医療機関に対する援助も打ち切られます。発熱外来がなくなるなど、患者にとっては何のメリットもありません。

毎日の感染者数の報告もなくなり、どんな変異型が流行しているかもわからなくなる可能性があります。

大事なことは、政府の都合で5類に引き下げられても、ウイルス自体は変わるわけではないということです。この1年余、国内では変異株オミクロンで3回の感染爆発が起こり、約5万人もの人が亡くなっています。今年1月だけでも1万人以上の死者を出しています。インフルエンザとは比べ

ものになりません。また、アメリカで流行している「XBB・1・5」は、感染力がより強いとされていますが、日本ではどうなるかもわかりません。

そういうリスクを抱えているときに、コロナ対策予算を減らしたい財務省や政府の都合で5類に移行し、同時にマスク着用の緩和をするというのは科学的ではありません。新型コロナが後遺症を伴う病気だということも、季節性インフルエンザとの違いです。

政府には後遺症の全体像の調査や治療費の公的補助をしてほしい。第9波を防ぐ対策を要求していきましょう。

(国立遺伝学研究所教授川上浩一さんのお話から
しんぶん赤旗 日曜版 2月26日号より)

みんなの声

以前、暮らしの手帖で読んだ話だ。あるジャーナリストがガザを訪れた。ガザはイスラエルに軍事封鎖されハマスという組織(日本政府は国際テロ組織としている)に統治されていた。車中から破壊された町を撮影しているといきなりハマスの警察官に拘束され尋問を受けた。通訳が「彼は日本人だ。支援が必要。ガザの状況を伝えるために来ている」と懸命に説明した。パスポートなどのチェックが済み本場に日本人だとわかると警察官が「ワリー。日本人は戦争をしない。俺たちの状況を世界に伝えてくれ」と言い拘束を解いた。そうだった。

ガザがどこにあるかも知らない私だったが、日本人は戦争をしない」という信頼に感動した。現在の政府の軍拡路線は、こういう世界的な信頼に背を向け敵を作るだけだと思つた。

(日の出 田島)